

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第149版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

掛け合い



子どもたちが楽しくなる環境づくり！

また、「2歳児クラスにSTEMに関する環境はありますか？」など、取り組んでの発表に加え、皆様からの質問によって、発表内容が作られているように感じました。発表内では、具体的な手作り玩具のご紹介もあり、発表を聞く先生方は食い入るように画面を見て、隣の先生と「うちの園だったら、こんなこともできるんじゃない？」と話しているのが聞こえてくるようでした。

発表を聞いた先生は、「香りを楽しめる環境について、自園ではどのような物ができるのか考えていきたいと思いました！」と仰っていました。今後は、他園の発表を聞いて、「こんな実践してみたい！」という発表の機会も設け、園同士の実践が更に掛け合わさる場づくりをしていきたいと考えています。

第3回「ミマモリングソフト」セミナーで、島根県のあさりこども園様に実践発表をして頂きました。発表内容は、指針にある環境の領域内の「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ」についてです。こちらの項目を選んだ背景をお聞きすると、「発達チェックを行う中で、香りの部分に関してチェックが付きづらかったから」と仰っていました。感覚や五感に関する項目の中で、特に「香り」の環境づくりについての実践内容で、参加者の皆様から、たくさんのご質問を頂きました。



あさりこども園様の実践発表動画の一部をご覧ください！
QRコードを読み取って頂くか、
下記のURLからご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=dppFcVtOV0c>

探求する喜び

茨城県鉾田市にある青山保育園様より、弊社ソフトセミナーにてソフトを使った実践発表をしていただきました。今いる子どもたちの発達を見つめると「生活の中で様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ」という発達に関する環境が必要だと理解した青山保育園様は様々な工夫を込めた実践に取り組んでいました。



ダイジェスト動画は上記QRコードか下記よりご覧いただけます！
<https://youtu.be/BKR-CC3HANw>

その一つに、子どもたちの不思議さや疑問の声を聴き、どんなことに不思議さや疑問を抱いているのかが分かる「はてな・ふしぎシート」という取り組みがありました。そしてこれらの子どもたちの声と発達課題に対して、『これってなぜ？』『こうしてみたらどうなる？』といった不思議さや疑問を子どもたち同士で共有できる場

「はてな・ふしぎシート」という取り組みがありました。そしてこれらの子どもたちの声と発達課題に対して、『これってなぜ？』『こうしてみたらどうなる？』といった不思議さや疑問を子どもたち同士で共有できる場

づくりとして、日々のお集まり会の中に「報告会」という場を作ったそうです。「先生の話よりも夢中になって子どもたちが聞き入っているんです（笑）」と先生も嬉しそう。その場がまた他の子の探究心をくすぐって遊びと学びが広まっていったといえます。

「仲間の不思議や疑問」に耳を傾け、皆が分かるような環境づくり。不思議や疑問を仲間と共に探求できる環境づくり。探求した学びを振り返り、皆でシェアできる環境づくり。この素敵な取り組みから、これからの組織のあり方を学ばせていただきました。

恵みに感謝

千葉県香取市にあるむかしの田んぼでは、9月の稲刈りは緊急事態宣言中何うことができなかったため、藤崎農場の皆さんが全ての稲刈りを行って下さいました。

稲刈りに参加できないのは残念なことでしたが、11月に入り緊急事態宣言も開けたことで、クルー全員とパートナーさん、藤崎農場の皆さんが勢揃いし、宮司さんもお迎えして無事に収穫祭を終えることができました。

この収穫祭はもともと「新嘗祭（にいなめさい・しんじょうさい）」と呼ばれ、無事に農作物が収穫できたことを感謝する祝祭日だったもの



来年も暮らしと健康を支えてもらえることに感謝して・・・

が、戦後は「勤労感謝の日」と名称を変え、現代にも残っているものです。むかしの田んぼでも今年の収穫に感謝し、来年も無事に収穫ができますようにと祈り、直会としてみんなで炊きたての新米をいただく豊かな時間を過ごすことができました。

コロナの影響で思うように田んぼに行くことができない日々が続いても、変わらずサポートしてくれた藤崎農場の皆さんや、いつも祈禱を下さる宮司さん、天候、田んぼの生き物など、たくさん恵みに見守られて育った「むかしのおこめ」。ご縁のある神社へ奉納したり、お客様へお贈りしたりと、たくさんの方と恵みを分け合うことを大切にしています。

また、お米という身近な食材を通して子どもたちへ伝統行事を伝えていくことも目指しています。

暮らしを支えてくれる全ての物事に感謝し、来年からも田んぼでの活動を通して、食や伝統を見つめ直す機会としていきたいと思えます。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

古民家で味噌づくり



小寒(1/5頃)が寒の入り、春が始まる立春(2/4頃)が寒の明け。味噌はこの時期の寒仕込みが適しています。圖やご自宅でも仕込んでみてはいかがでしょうか。

福岡県にある藁葺古民家「和楽(わら)」にて、先月「味噌づくりワークショップ」が行われました。ご家族

での参加も多く、参加者は0歳の赤ちゃんから年配の方まで多世代、多種多様。とても懐かしい雰囲気にもまれながら皆で味噌を作る中で、味噌が日本の伝統文化としてとても価値があるものだということを勉強し直すと共に、それを昔の伝統家屋で

つくる相性の良さを感じました。今では、味噌に限らず色々なものをお金で買うのがあたりまえになりがちですが、「手前味噌」というように、やっぱり私たちはずっと昔からそれぞれ民家で自家製味噌を仕込んでいたから、記憶がなくても身体の方にしっくりくるのかもしれない。改めて、先人が残してくれた智慧、生活文化の美しさをたくさん発見しながら、子どもたちへと繋いでいけたらと感じています。



ワークショップ後の昼食は味噌汁に加え、かまどで炊いたご飯や削りたての鰹節も!

日本の智と慧 貸し借りの関係

江戸時代は「ツケ」で買い物をする事が多く、支払いはお盆と暮れの二季払いで、年末は特に大変だったようです。私の若い頃はまだツケで飲んだ先輩もいましたが、「ツケておいて！」が通じる社会は何となくホッとします。実際にはお金や物だけでなく「世話や協力」という貸し借りもあります。昔は「恩を売る」とか「借りを返す」とよく言いましたが、そういう間柄は結構「深い関係」でもありました。それは「遠慮せず安心して付き合える証」であり

「心許した関係を創る」ひとつの智慧でもあったようです。「借りたことを忘れない」のも「次の人に恩送りする」のも、豊かな社会を保証してくれました。

物事はその「タイミング」によって様相が変わります。「今ここ」を争えば成り立たないことも、少し「時」をズラせば可能であり、「順番」を譲り合えば収まるかもしれません。この余裕がすべてを生かします。また「足りないから貸し借りが必要」のではなく、「楽しさをシェアしたいから貸してあげたい」「一緒にやりたいから力を貸して」という貸し借りであれば、「関係を楽しむ」幅が広がるかもしれませんね。

一期一会庵

若さ

「若さ」というものを最近感じる機会がありました。この若さは、年齢的な若さもありませんが同時に魂の若さ、精神の若さという心の瑞々しさのようなものがあるように感じます。それだけ「若さ」というのは、何か老いや若いという対照的なものとは別に普遍的なものがあるように感じます。そしてこの普遍的なものをもって生きている人は、肉体の変化にも関わらず心の持ち方次第でいつまでも若いように思います。

先日、改めてサミュエル・ウルマンの「青春」(岡田義夫氏訳)を読み直してみました。

大地より、神より、人より、美と喜悅、勇気と壮大そして偉力と靈感を受ける限り、人の若さは失われぬ。これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至ればこの時にこそ人は全くに老いて神の憐れみを乞う他はなくなる。

人生、一度きりですから子どもたちの憧れる大人で居続けられるようにいつまでもこういう心の持ち方、心の生き方をしていきたいと思えます。

う時に精神はしぼむ
苦悶や、狐疑、不安、恐怖、失望、
こう言うものこそ恰も長年月の如く
人を老いさせ、精気ある魂をも芥に
帰せしめてしまふ
年は七十であろうと十六であろうと、
その胸中に抱き得るものは何か

曰く「驚異への愛慕心」空にひらめく星晨、その輝きにも似たる事物や思想の対する欽迎、事に處する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歓喜と興味

人は信念と共に若く疑惑と共に老ゆる人は自信と共に若く恐怖と共に老ゆる希望ある限り若く失望と共に老い朽ちる

「青春」

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心。安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ」

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歲月は皮膚のしわを増すが情熱を失

編集後記



今年もお目通しいただきありがとうございました。

12月になると、なぜかソワソワするような、落ち着かない気持ちになるものです。

年末を表す「年の瀬」という言葉。この語源は記事にもある「ツケ払い」からきているそうで、たまったツケの精算で年末は慌ただしいことから「瀬」(流れが急で速い川)という言葉

葉が使われるようになったようです。心のどこかに引っ掛かっていることは年末という急流の勢いを借りて解決し、晴れやかな気持ちで新年を迎えたいものですね。

本年も沢山のお力添えを頂き、ありがとうございました。皆様どうぞ良いお年をお迎え下さい。(眞田由莉)

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて



☞ファックス番号が変わりました